

注意) 特定調達品目としての検討は、提案者の責任において提供された情報に基づいて実施します。万が一、提供された情報に故意に虚偽の内容が含まれている場合、又は記入内容に疑義が発生した場合は検討を取り止める場合がありますので、予めご了承ください。

提案品目自己チェック票

記入要領に従って、提案予定品目について(1)～(3)のチェックを実施して下さい。
以下のチェックの結果、B欄にすべてを記入できた場合は、様式2～5と、その記述の根拠となる資料等の作成を開始して下さい
提案資料作成後、提出の前に再度自己チェックを行い、C欄に を記入して下さい

提案資料作成前のチェック		提案資料作成後のチェック		
チェック項目	A この項目に該当する(又は必要事項の記入、記述の根拠となる資料の添付ができない)	B この項目に該当せず、必要事項の記入、記述の根拠となる資料の添付ができると思う	C この項目に関して、必要事項が記入され、記述の根拠となる資料が添付されている	事務局 記入欄
(1) 国及び独立行政法人等の公共工事において調達しないもの、または、極めて少ないものに該当しませんか？				
(2) 環境負荷低減に関する特性について、提案内容を客観的に評価するための資料がないものに該当しませんか？				
(3) 環境負荷低減以外の特性(品質確保(安全性、耐久性)の確実さやコストの適正さ等)を判断するための資料がないものに該当しませんか？				

⇒

B欄にすべてを記入できた場合は、様式2～5、記述の根拠となる資料等の作成を開始して下さい

↓

A欄にひとつでも該当項目がある場合は提案をご遠慮下さい

↓

C欄にすべてを記入できた場合は、(4)を記入して下さい

(4) 参考情報(いずれかに) 提案しようとする品目を、

1. 昨年度自らが提案した	
2. 昨年度は提案していない	

昨年度の提案品目名称	
昨年度は提案者名	

↓

提案資料一式を提出して下さい

環境省
総合環境政策局 環境経済課 宛

14年 月 日

グリーン調達品目 提案書

提案団体名	印
代表者名	役職： 氏名： 印
団体所在地	〒
担当者連絡先 〔事務局からの 連絡先になります〕	部課名： 役職名： 氏名： 電話番号： 内線 FAX： 郵便物等の送付先：〒 〔団体所在地と同じ 場合は記入不要です〕

工法 - 【様式3】

提案品目の概要

提案品目名と概要、グリーン調達品目としての判断の基準(案)等を記入してください。
(具体的な商品名の提案はご遠慮ください。)

グリーン購入法の趣旨に基づき、グリーン調達品目として、以下の品目を提案します。

(1)提案品目名 〔 昨年度提案を 行った品目の 再提案の場合は 下欄にも記入 〕								
	品目名				提案者名			
(2)提案品目の概要								
(3)提案品目の環境面のメリット								
(4)判断の基準(案)								
(5)比較対象品目名								
(6)比較対象品目の選定理由								
(7)提案品目の用途、使用する分野 〔 該当する分野に をつけて下さい (複数可) 〕		建設機械		河川		道路		下水道
		公園		港湾・空港		建築		環境マネジメントシステム

個票1：提案品目の環境負荷低減に関する特性

(1) 地球温暖化やエネルギー消費量の増大に関する特性

特にない場合は、「特になし」と明記

環境負荷低減の内容と程度		環境負荷増大が懸念される内容と程度	
環境負荷低減が生じる目的物のライフサイクルの段階		環境負荷増大が懸念される目的物のライフサイクルの段階	
1. 資材段階		1. 資材段階	
2. 建設段階		2. 建設段階	
3. 使用段階		3. 使用段階	
4. 解体段階		4. 解体段階	
5. 処理・処分段階		5. 処理・処分段階	

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

(2) 廃棄物処分量に関する特性(リサイクル関係)

特でない場合は、「特になし」と明記

環境負荷低減の内容と程度		環境負荷増大が懸念される内容と程度	
環境負荷低減が生じる目的物のライフサイクルの段階		環境負荷増大が懸念される目的物のライフサイクルの段階	
1. 資材段階		1. 資材段階	
2. 建設段階		2. 建設段階	
3. 使用段階		3. 使用段階	
4. 解体段階		4. 解体段階	
5. 処理・処分段階		5. 処理・処分段階	

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

(3) 生物多様性の保全に関する特性（生物の生息環境の悪化および生態系の破壊に関する特性等）
 特にない場合は、「特になし」と明記

環境負荷低減の内容と程度		環境負荷増大が懸念される内容と程度	
環境負荷低減が生じる目的物のライフサイクルの段階		環境負荷増大が懸念される目的物のライフサイクルの段階	
1. 資材段階		1. 資材段階	
2. 建設段階		2. 建設段階	
3. 使用段階		3. 使用段階	
4. 解体段階		4. 解体段階	
5. 処理・処分段階		5. 処理・処分段階	

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

(4) 有害化学物質に関する特性(大気汚染・水質汚濁等)

特にない場合は、「特になし」と明記

環境負荷低減の内容と程度		環境負荷増大が懸念される内容と程度	
環境負荷低減が生じる目的物のライフサイクルの段階		環境負荷増大が懸念される目的物のライフサイクルの段階	
1. 資材段階		1. 資材段階	
2. 建設段階		2. 建設段階	
3. 使用段階		3. 使用段階	
4. 解体段階		4. 解体段階	
5. 処理・処分段階		5. 処理・処分段階	

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

(5) その他の環境負荷特性【記入: 特になし】
 特になし場合は、「特になし」と明記

環境負荷低減の内容と程度		環境負荷増大が懸念される内容と程度	
環境負荷低減が生じる目的物のライフサイクルの段階		環境負荷増大が懸念される目的物のライフサイクルの段階	
1. 資材段階		1. 資材段階	
2. 建設段階		2. 建設段階	
3. 使用段階		3. 使用段階	
4. 解体段階		4. 解体段階	
5. 処理・処分段階		5. 処理・処分段階	

環境負荷低減内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷低減内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

環境負荷増大が懸念される内容と程度に関する自己評価の根拠
 環境負荷増大が懸念される内容と程度について、具体的にご説明ください。
 ・現状の問題・問題点に関する科学的な説明
 ・機能のはたらきや仕組みに関する科学的な理論
 ・性能・効果に関する定量的な測定・評価方法および結果
 等

記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

個票2：提案品目の環境負荷低減以外の特性

(1) 該当する品質基準

-1 評価・証明の有無(該当するものに)

1. ある	
2. ない	
3. 不明	

-2 該当する評価・証明の列举

添付	品質基準作成者	評価・証明番号	評価年月日
1			
2			
3			
4			
5			

-1 施工指針・基準の有無(該当するものに)

1. ある	
2. 作成中	
3. ない	
4. 不明	

該当する施工指針・基準の列举

添付	名称	作成者	作成年月
1			
2			
3			
4			
5			

(2) 目的物の性能を確保する条件(適用にあたっての制限条件等)

自己評価(該当するものに)

1. 比較対象と同等	
2. 比較対象と比べて制限が小さい	
3. 比較対象と比べて制限が大きい	

自己評価の根拠となる具体的な適用条件、適用範囲、適用方法等

記述の根拠となる資料の添付 有り	資料名:
記述の根拠となる資料の添付 なし	

(3)コスト(単位当り単価等)

自己評価(該当するものに)

1. 比較対象と同等	
2. 比較対象と比べて安価	
3. 比較対象と比べて効果	

自己評価の根拠となる単価等

	提案品目	比較対象品目	根拠資料名
施工単価			
単価比較の条件範囲			
記述の根拠となる資料の添付	有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし		

(4)入手可能性(地域、季節による入手の難易度等)

自己評価(該当するものに)

1. 比較対象と同等	
2. 比較対象と比べて容易	
3. 比較対象と比べて困難	

自己評価の根拠となる具体的な入手の難易度

記述の根拠となる資料の添付	有り	資料名:
記述の根拠となる資料の添付	なし	

(5)使用実績等

開発年

年	前後から
---	------

-1 年間工事件数、普及率

件数	提案品目の適用件数	シェア(様式3「提案品目の用途」に記載したものに対する適用件数の割合)	
		名称	割合
記述の根拠となる資料の添付	有り	資料名:	
記述の根拠となる資料の添付	なし		

-2 -1が困難な場合、比較対象と比べた普及状況についてのコメント。

--

工法 - 【様式5】

提案品目の公共工事における使用実績（国及び独立行政法人等による調達実績）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度
数量 /			

国土交通省の実績件数の内訳

技術活用パイロット	件
特定技術活用パイロット	件
試験フィールド	件
リサイクルモデル事業	件

提案品目の主な使用例（国、地方公共団体、民間）

No.	年度	発注者 / 施工場所	工事名称	備考(特徴等)
1				
2				
3				
4				
5				

記述の根拠となる資料の添付 有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付 なし		

今後の普及の見込み、価格低減の見込み等

(6) 安全性・労働環境衛生性

自己評価(該当するものに)

1. 比較対象と同等	
2. 比較対象と比べて安全性・労働環境衛生性が低い	
3. 比較対象と比べて安全性・労働環境衛生性が高い	

自己評価の根拠となる具体的な条件等

記述の根拠となる資料の添付 有り		資料名:
記述の根拠となる資料の添付 なし		